

IPO銘柄 No. 1 (3562・JASDAQ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
3562	100株	公募: 22.00万株 売出: 22.00万株 (OA6.60万株)	1,450円~1,570円 (7.3倍)	SBI証券



OA機器、セキュリティ機器の販売・保守を展開

■ 事業内容

オフィスコンサルタント事業、システムサポート事業を手掛ける。オフィスコンサルタント事業は、中小企業、個人事業主を対象に、OA関連商品と、セキュリティ機器の販売を行う。システムサポート事業では、主に都市部に設置した営業所、サービスセンターに「テクニカルコンシェルジュ」と呼ばれるサービスマンを配置し、同社が販売した機器の保守、メンテナンスを行っている。「顧客ニーズをくみ取る」ことの発展から経営支援サービスも展開中。ホームページ構築、パンフレットなど販促資材制作のほか、店舗改装、販売イベントの企画などもワンストップで手掛けている。17年2月期第3四半期累計（16年3～11月）の売上高構成比はオフィスコンサルタント事業が66.3%、システムサポート事業が33.7%。

■ 特徴

オフィスコンサルタント、システムサポートの2事業を連携したビジネスモデルを構築している点が特徴。顧客に対し商品を販売した後、サポートを行い、それを通じて顧客ニーズをくみ取るとともに、メーカー、サプライヤーと市場ニーズのある商品企画につなげる。こうして開発した商品を改めて同社が販売するという循環型のビジネスモデルで、自社企画商品のブランド「WALLIOR」「Club One Systems」も持つ。

アナリストコメント

■ 定量分析

17年2月期の連結経常利益は前期比37.7%増の2億8,800万円を計画する。OA機器やセキュリティ機器の入れ替え需要は堅調に推移する。販売構成比の悪化の影響は組織的な販売促進や生産性向上によって吸収し、利益率が改善する見込みにある。

■ 定性分析

成長イメージの強い業態ではないが、足元の業績成長率は高い。IPOマーケットで人気化するタイプではなく、3月のIPOラッシュの中で埋もれてしまう可能性もある。仮条件には一定の割安感があることから下値不安は乏しそうだ。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は約8億円程度。公開価格の50%高水準でロックアップ条項は解除されるが、ベンチャーキャピタル保有株はなく、需給面には妙味が大きい。IPO集中による買い付け資金の分散は懸念材料。

(小泉健太)

■ 類似企業

No. 1 (3562・JASDAQ)	予想PER7.3倍 (仮条件上限)
エフティグループ (2763・JASDAQ)	予想PER20.4倍
レカム (3323・JASDAQ)	予想PER27.4倍

■ 引受証券

SBI証券、SMBC日興証券、岩井コスモ証券、岡三証券、藍澤証券、エイチ・エス証券、エース証券、極東証券、東洋証券、水戸証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
15年2月期(実績)	6,321	—	224	—	123	—	315.6	0.0
16年2月期(実績)	6,797	7.5	209	▲6.4	104	▲15.6	190.2	0.0
17年2月期(会社予想)	7,174	5.6	288	37.7	163	57.4	213.7	0.0

※ 15年2月期から連結決算。16年11月に株式分割（1株→30株）を実施。15年2月期、16年2月期のEPSは遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
15年2月期	17,895	2,634	493	180	919.2	18.7	35.2
16年2月期	18,793	2,494	582	236	1,083.9	23.3	19.4

※ 15年2月期、および16年2月期のBPSは遡及修正

大株主上位（上場前）

氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1 辰巳 崇之	480,000	33.02
2 アイ・イーグループ	195,600	13.46
3 上坂 直行	148,800	10.24
4 インフォサービス	131,280	9.03
5 No.1従業員持株会	107,250	7.38
6 クレディセゾン	90,000	6.19
7 奥脇 治	68,940	4.74
8 久松 千尋	37,500	2.58
9 竹澤 薫	33,000	2.27
9 桑島 恭規	33,000	2.27

経営陣

役職	氏名
代表取締役社長	辰巳 崇之
取締役副社長	奥脇 治
常務取締役 経営管理本部長	竹澤 薫
取締役 法人事業本部長	桑島 恭規
常勤監査役	久松 千尋
監査役	竹内 朗
監査役	紙野 愛健

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。